

改訂して充実・レベルアップした「表現編」

前号に続き、新しくなった『美術資料』をご覧になった先生方からのご意見や感想を紹介し、著者の横田学先生にコメントをしてもらいました。



よこた まなぶ
横田学先生 プロフィール

これまでに、京都市立芸術大学教員(2002~2020年)、京都府立学校教諭、京都府教育庁指導部学校教育課指導主事、高等学校学習指導要領解説作成協力者(文部科学省)、評価規準研究開発協力者(国立教育政策研究所)、中央教育審議会教育課程部会芸術ワーキンググループ委員などに携わる。現・京都市立芸術大学名誉教授。



○水彩絵の具で描く P.38-39

P.39短時間でつくるコラム

「情景を描く」の⑥「描いた空に題名をつけてみよう。」は生徒によってさまざまな表現ができそうな題材ですね。コマ撮リアニメーションの背景にも使えそうです。

「あの日の空」「あそこで見た空」…「空」は生徒一人一人のイメージを引き出すのに良いテーマです。絵の具の使い方の習得だけではなく、自分のイメージした空を、どのように形と色で表現するか試行錯誤しながら制作させたいものです。



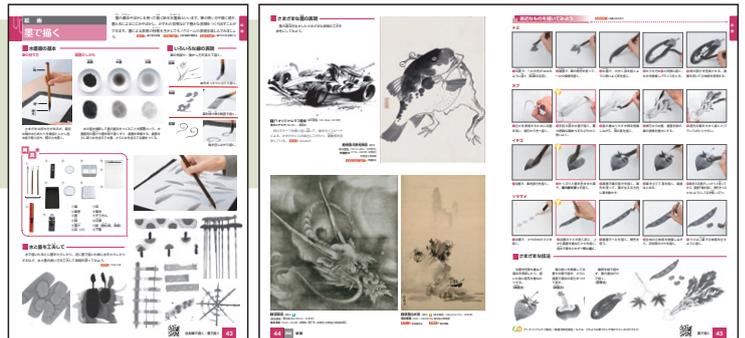
○墨で描く P.43-45

P.43は面白いページです。

「水と墨を工夫して」で生徒たちを引きつけたあと、P.44で茂本ヒデキチさんの作品や伊藤若冲の作品を見せたいです。



墨による表現は、単色(モノクローム)の表現ですがとても奥深いものです。にじみやかすれなど偶然にできる造形を楽しむとともに、その偶然を意図的につくる試みなど、短時間でも新たな発見や創意工夫が経験できる題材です。



○いろいろな版画 P.62-63

P.63短時間でつくるコラム

「ステンボードを使って回転版画をつくろう」のステン版画は自分も授業で取り組んでいます。参考作品の下にさりげなく《青、黄、赤の順で作成》と入っているのが、版による色の重なりがイメージできるので良いと思いました。

一つの版から色や刷り方を変えて複数の作品が制作できるのは、絵の具で描く絵画とは異なる版画の特性(複数性)です。この特性を生かした制作をぜひ経験させたいものです。



○木や石を彫る P.68-69

P.69「いろいろな素材」のスタイロ

フォームは木や石などよりも手軽で、彫刻の時間に扱いやすいですね。その下の「石けんを使って抽象彫刻をつくる」の石けんもそうですが、授業の時間が少なく限られているので、このような素材の紹介はありがたいです。



塑造(粘土)については小学校でもよく実践されていますが、中学校では彫造制作もぜひ経験させたいものです。彫る素材によって表現の効果や制作に必要な時間数なども異なります。指導計画や生徒の実態に応じて、素材を選択することが大切ですね。



○マークで伝える P.94-95

P.94「ナイキのマークの由来」を参考に、このページで紹介されているマークの意味や由来について調べ、発表してもらいたいです。また、何が単純化や省略、強調されてマークになっているのか考えてほしいです。



形が面白かったり色が美しかったりするだけでは良いマークやロゴとは言えません。それぞれに制作の意図(由来)があることに気付かせ、それが形や色にどのように結び付いているか考えながら鑑賞することによって、制作のときにも生かせるようにしたいものです。

○絵と言葉で伝える P.96

P.96「リーフレットをつくらう」で折り方が図解で載っていますが、意外にもこういった折り方を知らない生徒が多いようなので、これを見て知ってもらおうことができます。

美術の授業だけではなく、文化祭や生徒会、クラブ活動、修学旅行などいろいろな場面でリーフレットをつくることがあると思います。美術で学んだことを、生活の様々な場面で実際に活用できるような指導が大切です。



P.20-21 >> 情報を伝える P.97 >> コンピュータを使って表現する



○写真で表現する P.98-99

P.99「背景を考える」が大事なことだと思います。タブレットを活用して撮影をするときに、主役となるモチーフの背景に色紙や和紙をひくなどいろいろな方法を考える参考になりそうです。



一人一台のタブレット等の活用ができるようになりました。写真は、シャッターボタンを押すだけでとりあえず撮影できてしまいます。しかし、学習としての学びは、何をどのように表現するのか、意図をもって撮影することがポイントとなります。その意図を実現するために「背景を考える」などの撮影の工夫が必要なのです。

P.156-157 >> 写真

横田先生への質問



コロナ禍で生徒が自宅で学習しないといけないときがあります。新しい美術資料の中で、自宅学習の際におすすめのページや使い方はありますか？



制作をとまなう表現の自宅学習では、使用する用具や材料の準備、後片付けの負担などが少ない題材が求められます。今回の改訂で増強した「短時間題材」などは自宅学習にも最適です。

また、主体的で深い学びにつながる「試してみよう・調べてみよう」の問いかけを、各題材のページの下に掲載しています。これらも家庭学習などに活用できるでしょう。

※次号では、現場の先生方のご意見や感想を織り込みながら、「鑑賞の授業での活用」について取り上げる予定です。

秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。

●『美術資料』の詳細や、ワークシートなど各種ダウンロード資料を提供しています。

秀学社Webサイト
<https://www.shugakusha.co.jp/>



今号へのご意見や著者へのメッセージ、ご質問など、「お問い合わせフォーム」よりお気軽にお寄せください。

お問い合わせフォーム
https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

先生の声をお聞かせください。

